

6月 りがに

詞 /五十野惇

- ★ し しずかに し  
りがにの おかあさんの おなか  
から から  
こがにが えるよ  
し しずかに し
- ★ お おどかせ お  
りがにの おかあさんの おなか  
に に  
こがにが える  
お おどかせ お



学生のプログコメントから

「し しずかに し」というところが、ザリガニをよ〜く見てみたら卵を抱いてた！そつと観察してみよう…という感じがします。卵を抱えているザリガニを見たことがあります、普段は大きいハサミを持っていて強そうでも、卵を大事に抱えるところは微笑ましく、か弱い感じさえします。

私は小学生の頃ザリガニを飼っていたことがあり、1回の産卵でたくさんの子どもを産むので驚いた経験があります。この詩は生命の誕生を楽しいリズムで生き生きと書いてあると思いました！

歌詞を読むだけでメロディーふぁ浮かんできそうな歌ですね。こどもたちはとても表現豊かです。この歌は子どもたちのそういうところを生かして、ちょっとした体操を取り入れて歌うと楽しそうです。例えば、「し しずかに し」のところはゆっくり歌にあわせてしゃがんでいき、「お おどかせ お」のところはジャンプをする。子どもたちに自由に体操してもらってもいいと思います。

リトミックの時間に「し しずかに し」のところは静かに静かに小さな声で。「し〜!!」  
っと人差し指と口に当てて。「お おどかせ お」のところは元気いっぱい大きな声で。  
体全部を使ってザリガニを驚かすように。そう言ったメリハリのきいた歌い方をすると  
とっても楽しいと思います。

「しずかに」のところを読むときは、みんなで静かになって、小さくゆっくり読むのがい  
いと思います。「おなか」のところは、おなかに手をあてながら読んでほしいと思いました。  
「こがにがでるよ」のところは、子どもたちに呼びかける感じで読んでほしいんじゃない  
かなあと思いました！



## 6月 おいかわ

### にほんの にし ひがし

詞 /五十野惇

- ♪ さかなの おいかわ  
にほんの ひがしでは やまべと いいます
- ♪ さかなの おいかわ  
にほんの にしでは はえと いいます
- ♪ にほんの にし ひがし  
おなじ さかなでも いいかた ちがう  
おもしろいね

## 学生のプログコメントから

おいかわを東ではやまべといい、西でははえというのをこの詩を読んで初めて知りました。  
同じ魚でも地方・地域によって呼び方が違うということを学べるよい詩だと思いました。  
私は最近、宇佐美の方のお寿司屋さんでおしつけという魚を食べました。他のお寿司屋さ  
んや家族などに聞いてみても皆聞いたことがないと言っていたので、パソコンで調べてみ  
ました。そうしたら、正確な呼称がアブラボウズという魚で、おしつけというのは小田原  
付近で呼ばれる方言だったそうです。このような事があってから同じものでも地方では呼  
び方が様々だということに興味が湧きました。子どもたちにもぜひこの詩を読んでもらい

興味を持ってもらいたいです。

その地域によって呼び名が違う生き物っていますよね。県別の方言の場合もあるし、おいかわみたいに西東で違ってきたりする場合もあったりして、日本語っておもしろいなあ…とあらためて思います！

こどものころは、お萩と牡丹餅が何で言い方が違うのかわからなかったりしたけど、この詩みたいに教えてくれる詩があったら良かったのにな～

## 6月 がま

詞 /五十野惇

♪ うえ うえ うえに ある  
ソーセージ ではない み  
♪ した した したに ある  
みず ではない ねっこ  
♪ がま です



## 学生のブログコメントから

あの実の部分をソーセージと表現していたので驚きました。昔私ががまを見たとき、猫じゃらしだと思ったので、「先生とは違う見方をしているんだ～」と思いました。子供はどのような表現をするのか、きいてみたいです。

あの特徴のある形の植物をガマといったんですね！まえまえから不思議な形だなとは思っていましたが、自分で改めて調べてみることはしていませんでした。ガマは形こそ印象的でみんな見覚えがあると思いますが、その植物自体としてはマイナーな方なのではないでしょうか。

今回そのガマをわざわざ季節のお話に取り上げているのは珍しいし、すごいことだと思います。みんなこの季節だとチューリップやカーネーションなど、華やかな植物にいきがちです。ですが、そこをガマにするとところが、たくさんの植物に触れるという意味でも、この絵本のいいところなのではないかなと思いました。

ガマと言う名前、ブログを読んで初めて知りました。ソーセージのような部分は実なんで

すね。私の子供の頃はガマの生えているような場所が身近にありませんでしたが、あのユニークな植物は子供の目から見ると大変興味をひかれて印象に残るのだろうなあと感じました。うえ うえ うえ、した した したという部分によってガマの全体の形を頭に思い浮かべることができて良いと思いました。

わたしも最初にながまを見たときソーセージに見えてびっくりした覚えがあります。きっと多くの子どもたちがソーセージに見えると思います。最近は川や水辺が少なくなってきたことがない子どもたちが多いでしょう。本物を持ってきて見せてあげたらいいと思います。

6月 つばめの あかちゃん 詞 /五十野惇

♪ つばめの あかちゃん まっててね  
かあさんつばめが えさを くわえて  
くるからね  
♪ つばめの かあさん それ いそげ  
あかちゃんつばめが おなかを すかせて  
まってるよ

## 学生のプログコメントから

つばめの赤ちゃんがはらぺこでママの帰りを待っているそんな子供っぽい歌詞すごく素直でいいなと思っていました♪よくつばめの巣がおうちにできると幸せになるってゆうけど、ママつばめがえさといっしょに幸せを運んでくれるんじゃないかなって思っちゃいます。赤ちゃんつばめは自分じゃとれないから巣から落ちたとき大変です。だからママはあんまり離れないでほしいってゆう気持ちもあります。なんかつばめも人もいっしょだなあって思っちゃいます。

ツバメの赤ちゃんの、口を大きくあけてお母さんを待っている姿がとても可愛いと思いました。文からは、お母さんが赤ちゃんツバメのために餌を持って早く帰るよっていうところから、微笑ましい親子の関係と、子を想う母親の気持ちを感じました。同時に、人間もツバメも、我が子を大事に思う気持ちは一緒だな、とも思いました。

お母さんツバメを見ると、本当に子どもを大切にしているんだなと思います。どの親も子どもを大切にするのは変わらないなと思いました。

今回のこの作品は「親子」が題になっていてとても心が温まりました。一年のうちでこの時期にしか見られないツバメは子供にとってとても興味のある鳥だと思います。

近いようで遠い存在のツバメも人間と同じように家族があって同じ動物なのだとわかる作品だと思いました。

小学校の昇降口の上につばめの巣がありました。友達と帰りにいつも見ていました。とても懐かしいです。お母さんつばめはいつも子どもにごはんをあげていて、とても忙しそうでした。小学生ながら母親の大変さとおおきさを実感していました。心温まる歌だと思いました。つばめの子どもはとてもかわいかったです。

おかあさんを待つあかちゃんつばめがとてもかわいらしいです。子供たちには、実際に、身近に屋根の下などにできているツバメの巣と一緒にみながらこのお話を聞かせてあげたいです。また、このお話をした後に、いくつかのグループに分けて、親ツバメ（各グループ一人ずつ）がえさを取りに行き、子ツバメ（各グループの残りの子どもたち）のところに戻り次の子供に交代、全員に親ツバメ役が回ったところから上がり、というような簡単なリレーのような遊びもしてみたいです。

## 6月 あじさいの

### はなの いろ

詞 /五十野惇

- ♪ あじさいの はなの いろ  
かわるか？ かわる！  
み・し・あ・こ・む・ち
- ♪ どりから しろ  
しろから あお  
あおから こん  
こんから むらさき  
むらさきから ちゃ
- ♪ あじさいの はなの いろ  
かわるか？ かわる！  
み・し・あ・こ・む・ち



## 学生のプログコメントから

み・し・あ・こ・む・ちという言葉で、あじさいの色の変化を理解できるなんて、すごいと思いました。

みしあこむちは、色の名前の頭文字をつなげたものだったんですね。なるほどなぁと思いました。これなら、楽しくみんなで覚えられるなぁと思います。この歌を歌うことであじさいの色を覚えられる。授業で実際にあじさいを育ててもおもしろいと思う。

子供たちに画用紙と色ペン(緑、白、青、紺、紫、茶のどれか1本)を渡し、あじさいの絵を自由に書いてもらいます。書いたものを服や帽子に貼り付けるなどしてその子が何色のあじさいなのかひと目で分かるようにします。

最初はみんなごちゃごちゃの状態から、先生の「スタート」の合図で自分の色の一つ前の色の子を見つけて後ろから肩に手をのせていきます。最終的に6人が縦に並んだ状態になったらその6人で先生のところに戻ってきてゴールです！！

み、し、あ、こ、む、ち、という言葉がとても分かりやすいなと思いました。色がどんどん変わっていて可愛いなと思いました。道であじさいを見かけたら、色を観察してみたいと思いました！

色の頭文字だけをにとってクイズみたいになってるのが面白いと思いました。あじさいには自分が思っていたより色があってびっくりしました。

あじさいは梅雨のイメージがあります。雨に降られ、そしてキラキラ光っている、そんな情景が浮かんできます。実際にあじさいはよく見かけますが、二、三色しか見たことがありません。なので、「み・し・あ・こ・む・ち」には驚きました。初めは何の呪文だろうかと思っていましたが、花の色だったんですね。とてもおもしろいと思いました。あじさいを見ると、この言葉が浮かんできそうです。ことばの力ってすごいですね。

わくわくしている感じがでていてリズムカルな唄だなと思いました。梅雨といたらあじさい。子供のころは葉の上や裏にいるカタツムリを毎年捕まえにっていました。そのころは、カタツムリに夢中であまりあじさいの花は見えていませんでしたが、(今もあまり気にしていませんでしたが) 青色から紺色、さらに紫色になるんですね。土の性質によって色が変わるというのは聞いたことがありますが・・・勉強になります！！

あじさいって、意外に悲しいお花なんですね(´Д`;)でも花びら落とさないってところは

根性があると思います！！みしあこむちって覚えるなんて知らなかったの、この歌で子どもに教えたらいいかもしれないですね。



6月 かえる 詞 /五十野惇

★ はらぺこ かえるは ガア  
たんぼの むしを ガア  
ながく のびる したで ガア  
たべるよ ケロ

### 学生のプログコメントから

この唄を読んでて私は珍しいと思いました。私は『カエルのうた』のせいか、カエルの鳴き声は『ゲロゲロ』や『グワグワッ』だと思ってました。これは、人によって聞こえ方が違うってことですか??『ガア』と表現する先生は面白いと思いました。

カエルの歌以外の歌を見るのは初めてです。カエルの歌はあまり現実的ではなく、この歌のほうによりリアルに表現されていて、とてもいいと思いました！子どもたちにも聞かせたいと思いました。

このお話を読むと、カエルの暮らし方がよく伝わってきました。カエルの住んでいる場所の定番は田んぼでした。でも今は田んぼが少なくなってきた、カエルの鳴き声が身近に聞けなくなり、少し寂しいと思います。カエルの「ガア」とか「ケロ」という鳴き方もそうですが、舌で虫を捕まえる習性は独特で、今日改めてカエルは面白い生き物だと思いました。

この詩をみてまず初めに、なぜ最後の鳴き声だけ「ケロ」なのかと思いました。でも、自分が子供だったら「ガア」と三回言って、最後だけ「ケロ」と言うのが楽しみな気がします。だから、もし私がこの歌を歌うなら、最後のほうにむかってだんだん声を大きくしていこうと思います。

普通より短い詩ですが、聞かせどころがたくさん詰まっていると思います。まず、かえるが田んぼなどに棲んでいる両生類だということ。次にどんなふうにして餌を捕るのか。子



どもは好奇心旺盛ですから、これらのことを通して自然界のことや、他の動植物にもっと関心を寄せるようになるのではないのでしょうか。そして、かえるの鳴き声を二つの擬声語で表現されていて、言い方を工夫するなど、いろいろな読み方がができるのではないかと思います。

## 6月 かたつむり

詞 /五十野惇

- ★ かたつむりは によろ  
うちを せおって によろ  
によろ によろ
- ★ かたつむりは ぼり  
はっぱを たべる ぼり  
ぼり ぼり



## 学生のプログコメントから

まず最初に子どもたちに本物のかたつむりをみせて、「かたつむりはどうやって動いてるかな??」「かたつむりははっぱをどうやって食べるかな??」と、皆の意見を聞いて、によろによろ動くことと、ぼりぼり食べることを子どもたちに覚えてもらったら、私が「かたつむりは」や、「うちをせおって・・・」などと言うので、みんなには「によろ」や、「ぼり」のところを言ってもらおうと思います。

実際に見せて、かたつむりの面白さを経験してもらってから、ダンスにしてみるのも面白いと思います。頭に手を当てて背中にダンボールで作ったのを背負ったり、「によろ」のところで首を振ったり、二人ひと組で鏡のようにして踊るのもいいと思います。子供が楽しみながらかたつむりの真似をして、梅雨を楽しめるような遊びをしたいです。

短めだけど、「によろによろ」、「ぼりぼり」など、子どもが喜びそうな可愛らしい表現だなあと感じました。

『によろによろ』と『ぼりぼり』という言葉がとても可愛い詩ですね。かたつむりの動く様子を『によろによろ』と表すのは分かりますが、葉っぱを食べる様子を『ぼりぼり』と表すのには、独自のアイディアが出ている感じがしてとても面白いと思いました。それに



子供たちが好きそうな音なのも良いですね◎これから梅雨の時期でかたつむりがたくさん出てくるので、道端でかたつむりを見る度にこの詩を思い出さそうです。

私は、小さいころよくかたつむりの目をつついて遊んでいました。引っ込んだかと思うとすぐに目が出てきたりして面白かった思い出がありました。でも今になっては、気持ち悪いと思ってしまって触る機会が急に少なくなりました。でも、このお話を見るとかわいいと少し思えました。

このお話は子どもたちにかたつむりのことを知ってもらってから読んだほうが良いと思います！「せおって」のところは、背負った動作を子どもたちと一緒にしながら読んだらいいと思います。かたつむりの真似をみんなでしながら楽しく読みたいと思いました！

6月 すいれん 詞 /五十野惇

- ★ ゆらり ゆらり すいれんの はな  
みずに うかんで ゆれるよ  
あららら トンボが とまった  
ゆらり ゆらり  
すいれんの はなの おふね
- ★ ゆらり ゆらり すいれんの はっぱ  
みずに うかんで ゆれるよ  
あららら トンボが とまった  
ゆらり ゆらり  
すいれんの はっぱの おふね



## 学生のプログコメントから

春が終わりに近づいて、ちょっとしっとりとした綺麗な詩だと思いました。トンボがとまってユラユラ揺れる睡蓮を思い浮かべると、とても心が癒されます。はっぱのお船の上で一休みしているとんぼさんも、とてもうらやましいです！

静かで綺麗なお話だと思いました。読んでいるとその情景が思い浮かびます。水面に浮かんだ葉の上にたった一つの花しか咲かないすいれんは、派手ではないけれど私は好きです。東京ではあまり見られなくなっているけれど、現代っ子たちにもこの花見つけてほし

いと思います。

このお話は、体を動かしながら読むのが面白いのではないかと思います。例えば、子どもたちと一緒に声に出して読みながら、「ゆらりゆらり」のところを体を揺らし、「トンボがとまった」のところでピタッと体をとめるなどです。

すいれんの花のかわいらしさが伝わってくる歌だと思いました。特に、「はっぱのおふね」というフレーズが子供たちにすいれんの花は水に浮かんでいるんだよという事が伝わりやすくていいと思いました。子供たちと一緒にすいれんの花を眺めながら歌いたいと思いました。

池にスイレンの葉っぱと花がゆらゆら浮かんでいるかんじが想像できます。もう夏ですね。スイレンの周りにたくさんの生き物が集まっていそうですね。



6月 どじょう ひげ 10ぽん

詞 /五十野惇

- ★ どろんこ おおさま ひげ じゅっぽん  
どろどろ どろんこ おおいばり
- ★ そのなも どじょう ひげ じゅっぽん  
どろどろ どろんこ えさ さがし

## それでも きみは ふなか？ 詞 /五十野惇

- ★ さ…？ ひげが なくって さ…  
さ…？ せなかが くろっぽくて さ…  
さ…？ おなかが ぎんいろに ひかって さ…
- ★ さ…？ さ…？  
それでも きみは ふな か？  
さ…？



### 学生のブログコメントから

初めてこの詩を見たとき、不思議だなあと思いました!!詩というよりリズムに乗ったクイズのような感じで、きっと子ども達は授業以外でもお互い言い合ったりして楽しめるだろうなと感じました☆

また授業案としては、先生がまず画用紙にふなの絵を書いておいて（または図鑑など写真を用いて）、♪1番では子ども達に「さ…なまえは？」と問いかけてもらいますそうしたら先生はヒントになる答えの部分と言いますそして♪2番では、子供たちが最初の「さ…？」を言って、次は先生.その次の言葉は子供たち..と順番に言っていくと本当にクイズのようですますます楽しめるんじゃないかと思いましたもう少し大きい子達には、絵をなくして言葉だけでやりたいです

また少し難しいですが、二つのグループに分けてそれを子供同士でやるのもいいと思います相手に言葉だけで（しかも少ない）伝える難しさ、おもしろさがわかったら良いなあと思いますが魚だけに限らず、動物や食べ物などでも良いですね

結構短い詩ですが色々なやり方が出来るので、もっともっと楽しめる詩なんだなあと思いました

独特のテンポで面白いですね。子どもたちの想像力を大いに刺激する話だな、と思いました。最後に明確な答えがないのが面白いです。

このうたはカナリ個性的で独特なリズムであり楽しいです！いろんなテンポ、リズムで声に出して読んでみたいうただと思いました。また、クイズ形式なので子供たちも楽しんで読むと思います☆

ひとりずつに役をつけ、「あなたはどんな魚ですか？」とお互いに問いかけてみたりしていろいろと遊べるなあと思ったし、それをきっかけに子供たちの表現力が豊かになるきっかけにもなるかなと思いました。

6月 やご 詞 /五十野惇

★ やごの おしりはね ジェットキの ふんしゃぐち  
だって およぐ とき みずを うしりへ ふきだすんだもの

6月 いねの せいちょう おんど 詞 /五十野惇

① ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
たねまき トット

ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
めが でる トット

ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
はっぱ でる トット

ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
たうえです トット

ハイ ハイ ハイ おおきく なーれ

② ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
ひりょう いれ」 トット



ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
ほが てる トット

ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
はなが さく トット

ハアー  
いねや トット エンヤ トット  
みが なる トット



ハイ ハイ ハイ おいしく なーれ

## 学生のプログコメントから

すごくリズムカルで楽しいお話だなあと、思いました。お米が出来るまでの過程がわかるし、楽しく学べるのですごくいいと思います。「ホッ」というのが、すごく個性的で楽しい感じがします。「ホッ」のところで手の振りをつけたりしたら、芽が出るって感じがしていると思います。ホッホッホッのところも振りをつけて、体を使って歌ったりしたら、いいんじゃないかなと思いました。

行末に付いている「ホッ」という言葉が、全体のリズムを引き出している感じがしました。とてもテンポ良く読めて、田植えの楽しさが伝わってきました。

「でっぽ」という響きが面白いです。故郷の田んぼの風景を思い出しました。

もしかしてこの「ホッ」は稲穂の穂とかけているのでしょうか（^^）たのしいです！

「いっぽ」「でっぽ」「ホッ」「ホッホッホッ」「なーれ」という言葉が何度もリズムカルに詩全体に散りばめられてるので、子供たちと一緒に歌って踊ってすごく楽しめそうだなあと思いました

最初は、先生が詩を読んで子供たちに「ホッ」の所を言ってもらったり、先生が「ホッ」まで読んでいる時にみんな手を合わせて徐々に上に上げていって「ホッ」の所で手を広げ

たり開いたりしたいです。あと少し難しそうですが、例えば1番だったら「いっぽ」グループ「はっぽ」グループを作って、自分の詩のところで言ったり立ったり体を叩いたりして、「ホッ」や「おおきくなーれ」はみんなで言ったりしたいです。この詩は、子ども達も先生もみんなで体を動かして楽しめるので良いなぁと思いました

まるで早口言葉のようなテンポがよくて面白い文章ですね。こどもが楽しく口ずさめそうな歌だなと思いました。